

为了加深对遗华日本人理解的论坛会

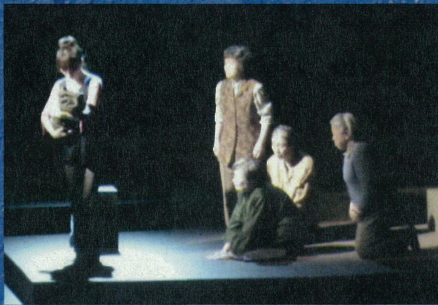
中国残留邦人等への 理解を深める シンポジウム

戦後65年が経過し、戦後生まれの世代が人口の7割を超えている現在、中国残留邦人等への理解を深め、次世代へ語り継ぐ機会としてシンポジウムを開催します。

入場
無料

2011年2月12日(土)
13:00~16:20
名古屋市中区役所ホール

劇団公演



2007年名古屋市民芸術祭 審査員特別賞受賞作

『望郷・そして飛翔』

劇団NEO企画

2007年・舞台はとある地方都市。

中国人留学生、王秀蘭はコンビニエンスストアでアルバイトしながら、それなりに充実した大学生活を続けていた。そんなある日、彼女のアルバイト先を一人の老婆が訪れる。流暢な中国語を話す彼女は、秀蘭に「貴方の父親は、本当は日本人なの」と告げる。

パネルディスカッション



司会 生島 ヒロシ
フリーアナウンサー



櫻井 龍彦
名古屋大学大学院
国際開発研究科教授
中国研究



趙 彦民
山東大学歴史文化学院講師
中国残留邦人問題研究



小野 真弓
タレント
NHK教育テレビレギュラー
CM出演



多岐川 華子
タレント
フジ「めざましテレビ」レギュラー

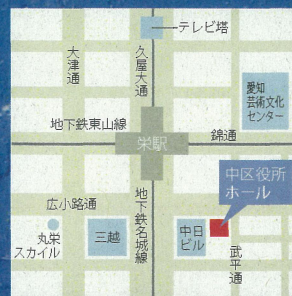
お申し込み方法

■ ハガキ、FAXまたはホームページから事前にお申し込みください(先着順・定員500名)

参加証を送付いたしますので、当日必ず持参してください。
詳しいお申し込み方法は裏面をご覧ください。

■ 申し込み・問い合わせ先


〒160-0004 東京都新宿区四谷4-3 ケイアイ四谷ビル5F
株式会社オーエムシー内『中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム』事務局
TEL 03-5362-0120 FAX 03-5362-0121
HP <http://zanryuhojin2011.com>



名古屋市中区役所ホール
名古屋市中区栄4-1-8
地下鉄東山線・名城線「栄」
12番出口より東へ徒歩5分

※詳しいお申し込み方法は裏面をご覧ください。

主催

 厚生労働省

後援

愛知県・愛知県教育委員会
名古屋市・名古屋市教育委員会

中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム

为了加深对遗华日本人理解的论坛会

舞台公演



劇団 NEO 企画

中国残留婦人・孤児たちの記録

『望郷・そして飛翔』

作・演出 菊本 健郎

1997年「望郷」
2005年「望郷1945+60」
そしてこの「望郷・そして飛翔」と中国東北部に取り残された残留邦人の悲劇を、継続して問い続ける演劇創造体NEO企画と作・演出の菊本健郎が放った意欲作。

2007年名古屋市民芸術祭審査員特別賞に輝いた名作を改訂上演。

あらすじ

2007年・舞台はとある地方都市。

中国人留学生、王秀蘭はコンビニエンスストアでアルバイトしながら、それなりに充実した大学生活を続けていた。そんなある日、彼女のアルバイト先を一人の老婆が訪れる。流暢な中国語を話す彼女は、秀蘭に「貴方の父親は、本当は日本人なの」と告げる。思いがけない老婆の言葉に動揺を隠せない秀蘭は、誘われるままに老婆の家を訪ねる。そこには秀蘭を待ち受けるもう一人の老婆もいた。実は老婆たちは、第二次世界大戦末期、現在の中国東北部、旧満洲の地に取り残され、ようやく近年帰国を果たした中国残留邦人であった。彼女たちは秀蘭に、かつてその地で悲惨な運命を辿った多くの日本人の仲間たちの物語を語って聞かせる。そして秀蘭自身の父親の真実の姿も・・・

パネルディスカッション



司会
生島 ヒロシ

フリーアナウンサー



小野 真弓

タレント
NHK 教育テレビレギュラー
CM 出演



多岐川 華子

タレント
フジ「めざましテレビ」レギュラー



櫻井 龍彦

名古屋大学大学院
国際開発研究科教授
中国研究

民俗研究傑出成就賞 受賞
《阿詩瑪》国際学術研討会 特別貢献賞 受賞
国際アジア民俗学会特別功労賞 受賞
【所属学会】日本文化人類学会、日本民俗学会、
日本道教学会、日本中国学会、日本口承文芸学会、
東方学会



趙 彦民

山東大学歴史文化学院講師
中国残留邦人問題研究

中国東北部出身
名古屋大学大学院で歴史社会学を専攻
【研究分野】満洲移民、中国残留日本人に関する
歴史社会学的研究
【著書】『満洲愛国信濃村の生活—中国残留孤
児達の家族史—』『中国残留日本人という経験
—「満洲」と日本を問い続けて—』

中国残留邦人等とは

今から65年前、「満洲」と呼ばれていた中国東北部地区には、開拓団を始めとした多くの日本人が居住していましたが、突然のソ連参戦により、人々は長い逃避生活を余儀なくされ、逃避中や収容所等では、飢餓や伝染病等により死亡者が続出するという悲惨な状況となりました。

このような混乱の中、家族と離れ離れになり孤児となり中国人に育てられた子どもたちや、生活のため現地で結婚するなどして中国に留まった女性たちなどが、「中国残留邦人」と呼ばれる方々です。

※残留邦人の多くは、中国に残留していましたが、樺太や旧ソ連本土に残留していた方もいることから「中国残留邦人等」と総称しています。

支援の現状とシンポジウム

国や自治体では、日中国交正常化以降、階段を踏みながら、中国残留邦人等の方々の円滑な帰国の促進と定着後の自立を支援するため、身元調査などの永住帰国の支援や、中国帰国者定着促進センター、中国帰国者自立研修センター、中国帰国者支援・交流センターの各種研修施設における日本語研修などを行ってきました。

しかし、中国残留邦人等の方々は、長期の残留で日本人としての生活を失ったことにより日本語の習得や就労が難しく、また、高齢で帰国した方については老後の蓄えが不十分であるなど、経済的に自立出来ないことや、言葉や文化の違いから地域住民との付き合いが薄薄となり社会的に孤立するなど、多くの困難に直面していました。

これを受け、平成20年4月から「新たな支援」として、高齢であることなど一定の条件を満たす中国残留邦人等の方々に対しては「老齢基礎年金等の満額支給」と「補完する支援給付」による「老後の生活支援」を、また、全ての中国残留邦人等の方々に対しては、研修施設退所後も身近な地域で継続的に日本語等を学び、地域住民の皆さまとの交流を図り安心した生活を送れるよう「地域社会での支援」を開始しました。

今回のシンポジウムは、地域社会での支援の要となる地域住民の皆さまに、中国残留邦人等の方々への理解を深めていただくとともに、将来の支援者となる若い方々に中国残留邦人等の方々の経験を語り継ぐことを目的に開催するものです。

申し込み方法

■FAXでの申し込み

下の申込書に必要事項を明記し、下記までご送信ください。

[FAX] 03-5362-0121

■郵送での申し込み

下の申込書に必要事項を明記し、切り取って下記までお送りください。

〒160-0004

東京都新宿区四谷 4-3 ケイアイ四谷ビル 5F

株式会社オーエムシー内

『中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム』事務局

■ホームページでの申し込み

ホームページ上の申し込みフォームより申し込みください。

[URL] <http://zanryuhojin2011.com>

※お申し込み先着500名様に参加証を送付します。

※御登録頂いた個人情報は、このシンポジウムの運営業務のみに使用し、終了後速やかに破棄します。

■シンポジウムに関するお問い合わせは

☎ 03-5362-0120 まで (受付時間：平日 10:00~17:00)

申込書 FAX 03-5362-0121

ふりがな	性別	男	年齢
お名前		女	才
ご住所			
電話番号	職業		

※シンポジウムのお申し込みにはお名前の登録が必要となり、複数でのお申し込みの場合にはコピーをおとりになり人数分ご記入いただくか別紙に同事項をご記入の上お申し込みください。(参加希望人数はお申込者も含めて5名までです。)